

# 共に考え合う道徳の授業づくり

## －豊かな体験と道徳授業について－

大和郡山市立郡山南中学校 教諭 森 下 亮 仁

Morishita Akihito

### 要 旨

道徳の時間が生徒にとって「人間としてよりよく生きていく道徳的実践力の育成」の場となるためには、生徒が「楽しい」「ためになった」と感じる心にと響く時間でなくてはならない。そこで、道徳の時間と総合的な学習の時間の関連を図ったり、参加型・体験型の学習やエンカウンター的手法を取り入れた道徳の授業を行ったりするなど、生徒の体験を生かし、「自分はどうなのか。」と自己の内面を見つめる展開を大切にしたい授業づくりを進めた。

キーワード： 道徳教育、道徳の時間、コミュニケーション力、表現力、受容力、自己理解

### 1 はじめに

最近の中学生を見ていると、「社会性」に物足りなさを感じる事が多くなった。これは、人間関係の在り方を学ぶ機会が減っていることや、協力して行う活動など人間関係づくりの基盤となる資質・能力を培う機会が不十分になっていることが、要因の一つとして挙げられるのではないかと。まさに「生きる力」を育てていくことの大切さを痛感する。

この「生きる力」の核となる豊かな人間性を育てていくためには、「心の教育」の充実が必要であり、これに深くかかわっていくのが道徳教育である。これまでにも、各教科、特別活動、総合的な学習の時間などで心を育てるための様々な体験活動を計画・実施し、また、道徳の時間においても、様々な体験活動を基盤にして、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努めてきた。その際、道徳的価値観を押し付けたり、教え込んだりするのではなく、生徒自身がどのような生き方を、そしてどのような人生をつくるのかを自ら考えることのできる学習を進めることが大切であると考えた。

### 2 研究目的

総合的な学習の時間や特別活動などでの体験活動を、補充、深化、統合する時間であると考え、道徳の時間の充実に向け、自己の生き方を考える道徳の授業の工夫や人間関係づくりの基盤となる資質・能力を高めるための支援の在り方について考察する。

### 3 研究方法

「人間としてよりよく生きる力」の育成を目指して、道徳の時間が生徒にとって心に響く時間となるためには以下の二つの点が必要であると考え、実践を進めた。

#### (1) 道徳の時間の授業の工夫

道徳の時間に、参加型・体験型の学習や構成的グループ・エンカウンター（以下、エンカウンタ

一と呼ぶ。)の手法を取り入れる工夫をした。エンカウンターは自己肯定感を育てたり、生徒の人間関係を育てたりすることができる心理学的な教育方法の一つである。教員と生徒が共に考え、共に夢や願いを語り合い、生き方を追求し、心を動かすことができるきっかけになる手法であると考えた。

(2) 他の教育活動との関連を図る工夫

道徳教育のねらいと総合的な学習の時間のねらいには、自己の生き方の自覚を図るという共通したものがある。相互の関連付けや交流を図ることは、両者のねらいを深める上で非常に効果的であると考えられる。そのために、総合的な学習の時間の中で豊かな心を育てる活動を大切にしたり、体験活動で得た感動や感激を道徳の時間で深めたりするようにしたいと考えた。

#### 4 研究内容と結果

(1) 道徳の時間の授業の工夫

ア 参加型・体験型の学習やエンカウンターの手法を取り入れた道徳の授業

(ア) 「ちがう」こと、バンザイ!? (道徳の時間 2時間)

ねらい：様々な違いについて書かれたカードを使い、話し合いを進めながら、あってよい違いと、あってはならない違いを公正・公平や個性の尊重の視点から考え、それぞれの個性や立場を尊重する態度を養う。(指導内容4-(4))

1次：各グループでカードを「あってもよいちがひ」「あってはならないちがひ」「どちらともいえないちがひ」に分類して理由を考え、あってよい違いとあってはならない違いについてワークシートに書き込んだ。

2次：各グループで話し合ったことを確認し合い、発表・交流し、学級全体で振り返った。

カードを分類するための意見交流では、自分の意見をかたくなに主張する生徒、逆に他人の意見をしっかり聞こうとしている生徒、意見を整理する生徒など様々であったが、グループの意見として何とかまとめることができた。

参加型の学習を進める中で、生徒が主体的に、カードの内容について深く考え、互いの意見を尊重し、それぞれ身近な問題と結び付けて考え、課題を解決するという学習ができた。今後も、生徒一人一人が、それぞれの個性や立場を尊重するとともに、より広い視野で物事を考えようとする態度を見守っていきたい。成果として、次のようなことが挙げられる。

- 話すことと聞くことが並行して行われ、相手と自分の考え方の違いを知り、もう一度振り返ることで新たな考え方をもち始めることができた。
- 自らが様々な課題に気づき、「カードに書かれていることを詳しく説明してほしい。」という意見を出し、みんなで課題を解決していこうとする姿がみられた。
- 身近な問題とカードの内容とを置き換えて考えることで、「違い」や「個性」、「公平」について自分事として考えることができた。

(イ) 美しく自分を染め上げて下さい(道徳の時間 1時間)

ねらい：自分のよさを見だし、それを伸ばして充実した生き方をしようとする態度を養う。

エンカウンターの手法を授業に取り入れ、自分自身の「よさ」が認められる体験を導入として行った。互いの個性の違いを認め合うことが、互いを尊重することになり、それが人間関係をよりよい

状態に保つことにもつながる。そして、個性を生かし伸ばすことになる。本時では、自分の個性を「色」に例えて表現させ、続いてジャンケンをして勝った生徒は負けた生徒から自分のイメージの「色」とその理由を伝えるという活動を導入として行った。活動を通して、自分が思っている色と他人が思っている色の違いを感じ、自分のよさに目を向けることができたようである。この活動に続いて、詩「美しく染めて上げて下さい」を資料として使い、自分を染め上げるには、言い換えれば、自分の個性を伸ばしていくには何が大切なのか考えさせた。教員が詩を朗読した後、発問を投げかけると、一人一人それぞれの思いを語り始め、意見の交流が非常に深まった。



写 1 授業風景

**発問 1**：「生まれたときは、だれでも白」とはどんなことか。

**生徒の意見**：始まりの色、何もできない、心が真っ白、無、何も知らない、個性がない、人に合わせられる人

**発問 2**：「人をいたわり、自分をきたえる、これが重なると輝きのある色になる」とは、どのようなことか。

**生徒の意見**：人の心を磨けば輝く、何もかも忘れて人のために働く、みんなに温かい心、人に優しく自分に厳しい

**発問 3**：自分を美しく染め上げるには何が大切だろうか。

**生徒の意見**：あきらめない、人に優しくする心、自分の心を高くする、毎日の積み重ね、継続は力なり、努力、勇気、出会い、もっと冷静になる、運、やる気



写 2 授業風景

《生徒の書いたワークシートから》

質 問 内 容	生 徒 A	生 徒 B
1 自分を色にたとえると何色ですか。	水色	黒色
2 友達から聞いた「色」と「理由」は。	—略—	—略—
3 自分をどのような色に染めていきたいですか。	たくさん色、一つでも多くの色に染めたい。	黒色
4 それはどうしてですか。	自分が一色に染まってしまうのは嫌だから。自分が一つのイメージしかないのは少しさみしいから。あの人はいろいろな色をもっているんだと思ってもらえる人になりたい。	「自分」をもっていて、だれにも染められない黒色になりたい。でも、いろいろな色に合わせられる色にもなりたい。
5 そのために、何を大切にしなければならぬでしょうか。	人のまねをするのでも、自分自身を飾るのでもなくて、自分の思うように生きていく。とにかく、人に左右される人にはなりたくない。だから、自分はこの色だからと固定するのではなくて、自分のことだけでは	「自分」をもつ。人に合わせる心をもつ。広い心をもつ。何に対しても冷静に臨機応変に。人との出会いを大切に。自分の周りにいてくれる人を大切にしたい。

なくて、他人のことも考えなくては  
いけない。

エンカウンターを取り入れたことで、和らいだ雰囲気となり、様々な思いや考えを引き出すことができた。日常生活の中で、すぐに気持ちが高ぶり、問題行動を起こしがちな生徒Cの口からも、「自分は、すぐにかつとするから、もっと冷静にならないといけない。」と発言があった。この生徒のように、道徳的価値を自分とのかかわりでとらえ、自己の内面で深く自覚したり、相手の考えを自分なりに発展させ、自分の生き方に結び付けようとしたりする生徒が何人もいた。

(2) 他の教育活動との連携を図る工夫

ア 道徳の時間と総合的な学習の時間をつなぐ

本校では2年生の総合的な学習の時間『がんば3 days! (地域ふれあい体験学習)』の中で職場体験を実施している。今まで実施してきた中で、学年の単発的な取組になってしまっていたことや、職場体験で学んだことが三年間でどう生かされているのかなどの位置付けが不明確であったことに対する反省や課題が出てきた。そこで、今年度からは、1年生の総合的な学習の時間『GANBAMIRAI』から2年生の『がんば3 days!』への流れや関連を大切にしようと考え、実践を進めている。

道徳教育のねらいと総合的な学習の時間のねらいには自己の生き方の自覚を図るという共通した部分があり、相互の関連付けや交流を図ることは効果的である。そこで、総合的な学習の時間の体験活動が豊かな心を育てるものになるように、そして、体験活動で得た感動や感激が道徳の時間で生徒の思考の手がかりとなり、それぞれの生徒なりに深められるように進めた(表を参照)。

表 道徳の時間と総合的な学習の時間の関連図

学年	総合的な学習の時間	ねらい	道徳の時間
1 学 年	『GANBAMIRAI』 《自分を知ろう》 I 友達のいいところ探し II 自分を知するために調べる内容及び方法 III 個性と職業の関係を考える IV 適性検査(新たな発見)	自分 を 知 る	主題名：ちがうことバンザイ 内 容：個性の尊重 資料名：「ちがう」こと、ばんざい!?
	《いろいろな職業を知ろう》 I 身近な職業について考える II 自分のなりたい職業について調べる III 「私のしごと館」での体験 IV 体験してきたことの発表		主題名：自分をきたえる 内 容：個性の伸長 資料名：美しく自分を染め上げて下さい
2 学 年	『がんば3 days!』 《社会人講演会》 《地域ふれあい体験学習》 《体験学習発表会》	自分 を 試 す	I 主題名：社会のきまり 内 容：社会の秩序 II 主題名：働く喜び 内 容：勤労・社会への奉仕

3 学 年	『GANBAMIRAI』  《高校見学会》 《卒業生を招いて》	自 分 の 未 来 を 拓 く	I 主題名：やりぬく心 内 容：強い意志 II 主題名：理想の実現 内 容：理想の実現
-------------	--	--------------------------------------	--

生徒は、他人との交流の中で、互いを認め高め合いながら、自分に足りないものや自分にしかないものを発見することで、自分を見つめ直し、自他のよいところにも目を向けようとしてきている。

イ 道徳の時間と学校行事をつなぐ

(ア) 国際理解（道徳の時間 2時間）

ねらい：他国の文化に対する理解を深め、異なった習慣や文化を互いに認め合いながら、国際理解を深める。また、身近にいる外国の人に目を向け、共に生きる社会の実現に向けての意欲を高める。（指導内容4－(10)）

1次：ビデオ「地図にない国境」を視聴し、外国人の置かれている状況に気付くとともに、異なった文化や習慣を互いに認め合い、共に生きるために大切なことを話し合った。

《視聴しての生徒の感想》

質 問 内 容	感 想
1 山川君が学校に来られなくなったのは、どんな気持ちからだと思いますか。	○言葉も分からないし、遊んでいても本当の自分が出せなくて、学校にいてもみんなと仲よくできないからだと思います。 ○クラスの子も自分自身を出しきれてはいなかったし、山川君も自分自身を出せなかったんだと思う。
2 英則や春奈が現地校の生活の方がよかったと思ったのはなぜだろうか。	○自分のことを知ろうとしてくれて、分からないことも色々教えてくれるところだと思う。 ○自分の気持ちを伝えると同時に相手のことも知ろうとしてくれた。言葉だけでなく、心から接してくれたから。
3 もし、自分が山川君の立場であればどんな気持ちになっただろうか。	○早くみんなになれて友達をつくり、言葉が分からなくても気持ちだけでも通じるようになりたい。 ○やっぱりつらいと思う。山川君と同じように、自分の中にひそんでしまうと思う。あの状況で自分を出すのは難しいと思う。
4 「ちがうと思う」と春奈が言ったのは、どんな気持ちからだったのだろうか。	○「教えてあげよう」という気持ちじゃなく、山川君を知ろうとする気持ちが必要だと思ったから。 ○本当に心から接していかなければならないと思ったから。
5 共に生きるために大切なことは何だろうか。	○違う国だから言葉も習慣もちがって当たり前、どんな人も平等で対等の位置にいないからいけないと思う。 ○違う国の人とかの気持ちとかどう接してあげればいいのか分かりました。 ○J君も同じような苦しみをもっているんだろうな。

2次：ビデオ「地図にない国境」を振り返り、身近な外国人のなかまに対して、自分たちはどんなことを理解し、どんなことができるかを考えた。

本校では外国人生徒が在籍することもあり、他国の文化に対する理解を深め、異なった習慣

や文化を互いに認め合い、身近な外国人のなかまにも目を向けてほしいという願いをもちながら、国際理解についての学習をした。

ビデオを視聴する中で、他国の文化に対する理解を深め、互いの思いや立場を尊重し合うためにはどのようにすればいいのか、身近な外国人であり自分たちのなかまである生徒Jとどのように接すれば分かり合えるのかなどを、生徒たちは真剣に考え、話し合うこともできた。また、ポルトガル語の会話シーンを見たり、文字を読んだりすることで、文字を読むことや話すことができない辛さを疑似体験し、ビデオ「地図にない国境」の内容を実感し、真剣に考えることができた。

(イ) 天理大学生を招いての講演及び体験（学校行事 2時間）

ねらい：天理大学のブラジル国籍の学生と日本人学生を招き、文化や習慣の違いについて知る。

また、ブラジルの遊具「ペテカ」を共に体験したり、ブラジルの生活や文化や習慣、日本での苦労話、かかわってきた学生の立場の違いの話を聞いたりすることで、共に生きていくための私たちの課題やその解決について考える。

(ア)の道德の時間の学習で、身近な「なかま」の国をもっと知りたいという生徒の思いが高まっていたので、今回の講演を学校行事として実施した。この講演での学生の思いは生徒の中で(ア)の道德の時間の学習と重なり、他国の文化に対する理解を深め、互いの思いや立場を尊重し合うためにはどのようにすればいいのかという手がかりになったようである。

《生徒の感想》国と国の文化の違いはいっぱいあると思うけれど、楽しいと思う気持ちとか悲しい気持ちとかに違いはないと思うから、外国人の気持ちをもっと理解していかなければと思う。言葉は違うけれど人間っていうのは同じだし、向こうから見ればこちらも外国人だ。言葉は分からなくても気持ちが合えば外国人と仲良くなれると思う。国が違うからといって仲良くなれないわけではないから、もっともっと外国人と交流していければいいと思う。



写3 「ペテカ」体験風景

## 5 考察と今後の課題

道德の授業に参加型の学習やエンカウンターの手法を取り入れたことにより、授業は活発なものとなった。和らいだ雰囲気の中で、生徒たちも様々な意見や考え方をらせ、互いの意見の聞き合いから振り返りに至るまで、授業を活性化させるのに効果的であった。何よりも授業中の生徒の表情がいつもと比べて明るいように見えた。

また、日常の自己の生活とのつながりを生かした道德の時間や体験を生かした道德の時間、総合的な学習の時間などと連携した道德の時間は、生徒にとって深く自分を見つめ直したり、他者の考えに目を向けたりするのに大変意義深いものであることが分かった。ただし、そういった連携を進めるためには、それぞれの時間のねらいをしっかりと定めながら、それぞれの関連を図った年間指導計画の立案が必要である。また、道德の時間自体も、生徒の心に響き、心が揺さぶられ、自分の生き方を考えることのできる時間となる必要がある。

生徒と共に考え、生き方を追求できる学習は、これからの中学生にとって、とても大切な時間である。今後も、様々な体験活動を基盤にしなが、教員と生徒が、共に自分の人生を「よりよく生きる」ことを目指し、悩み、考えていく道德の時間の充実に努めていきたい。